

トピック まなづるの海

今年の干支、海版はアメフラシ!?



クロヘリアメフラシ(左)、産卵中のアメフラシと卵塊(右上)。ウミウシ(右下:アオウミウシ)は、分類上はアメフラシに近い仲間だが異なるグループに分けられる。

あけまして、おめでとうございます。2021年、海の月報をどうぞよろしくお願いいたします。

寒さが厳しい季節ですが、磯では今年の干支「丑(うし)」にも関係する海の生物アメフラシが潮だまりの中に見られるようになってきました。アメフラシは、軟体動物で巻き貝の仲間です。もともとあった貝殻は進化の過程で退化したと考えられ、背中の中のひだの中を触ってみると、薄く小さな貝殻の名残りを背負っているのがわかります。つつくなどの刺激を与えると紫色や白色の液体を出しますが、液体が水中に広がる様子が雨雲のように見えることがアメフラシの名前の由来とされています(諸説あります)。ずんぐりとした体、頭に突き出た2本の触角が牛を連想させ、神奈川では「うし」「うしんべ」、島根などでも「べこ(「牛」を意味する方言)」とも呼ばれます。また、カラフルなウミウシとは分類上は異なりますが、地域によってはアメフラシを「うみうし」と呼ぶこともあるようです。

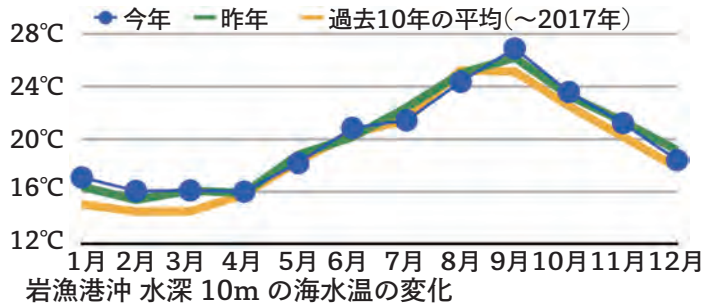
磯の生物の多くは、3月過ぎから活発になるのに対し、アメフラシは一足早く、12月頃に海藻が増え始めると磯で多く見られるようになります。日がな海藻を食み、他の生物を攻撃することもなく平和に過ごす様子も、まさに牛のようにのんびりとしています。しかし、アメフラシたちはただのんびりしているだけではなく、仲間同士で集まり、卵を産んで次の世代へ命をつないでいます。石の裏側や海藻についた黄色やオレンジ色の糸状の塊は、アメフラシの卵塊です。まるでラーメンのようにも見える卵塊は、「海そうめん」と呼ばれ、この中にはたくさんの卵が入っています。真鶴の磯では、アメフラシの仲間は6月頃まで見られます。丑年の今年、海辺を訪れた際には、ぜひアメフラシを探してみてください。のんびりアメフラシのように、今年一年、平和で良い年になりますようお祈り申し上げます。

真鶴の海況

4ヶ月連続、平年より高い海水温

岩漁港沖水深10mの2020年12月の海水温は、18.4℃となりました。2017年までの過去10年の12月の平均水温17.8℃と比較するとやや高く、結果、9月から12月までの4ヶ月連続で過去10年平均水温より高くなりました。

このまま、水温が高い状態が続くと、夏の暖かい時期に黒潮に乗ってやってきた生物「季節来遊魚」が真鶴の海で越冬できるようになります。また、海藻は水温が低い時期に成長する種類が多いため、このままだと、ワカメやノリなどの生育にも影響が出てしまうことが予想されます。<情報提供: 横浜国大 臨海環境センター>



まなづるの漁獲情報

賑やかな年末と資源保護のための法改正



ワラサ(体長65cm程度)

12月は強風で海況の優れない日もありましたが、真鶴漁協の定置網では、アジやマサバ、イナダやワラサをはじめ、多様な魚種が継続的に水揚げされ、賑わっていました。皆さんもおせちをはじめ、年末年始で海産物を口にされたことと思います。

新年を迎える時以外にも、さまざまな場面で日本の文化と海産物は切り離せない関係ですが、一方で、水産資源の枯渇は目の前に迫った危機です。漁業における水産資源保護の取組には先月号でお伝えしたクロマグロの規制だけではなく、様々なルールが設けられています。それに加えて、令和2年12月1日に改正漁業法が施行され、一般市民も対象として、漁業権や漁業許可に基づかず(いわゆる「密漁」)でアワビやナマコの特水産動植物を採捕すると3年以下の懲役または3,000万円以下の罰金が課されることになりました。さらに、サザエやイセエビなど漁業権の対象となる水産動植物を権限なく採捕した場合、これまで20万円以下の罰金だったところが、100万円以下の罰金と大幅に強化されました。軽い気持ちで採っても大きなペナルティーが課されます。十分に注意いただき、水産資源の持続的利用にご協力ください。

さて、今回ご紹介するのはワラサです。出世魚で有名なブリ(80cm以上)の少し小ぶりのもの、イナダ(35~60cm程度)より大きなサイズを言います。このサイズになると新鮮なものも美味しいのですが、少し寝かせて熟成させるとより旨味が増します。今回は1日寝かしたのち、2日かけてお刺身でいただきました。<情報提供: 真鶴町漁協>

町立遠藤貝類博物館 1月中旬~2月のイベントスケジュール

- 1月16日(土) まなづる自然こどもクラブ(真鶴・湯河原町内小・中学生対象)「お林をたんけんしよう!」お林・町立遠藤貝類博物館【要申込・保険料】
- 2月13日(土) 町立遠藤貝類博物館 海中写真展 開始(~6月30日まで) ※真鶴の海中写真募集中! 応募締切:2021年1月31日
- 2月28日(日) 海のミュージアム「琴ヶ浜ビーチコーミング~漂着物をあつめよう~」琴ヶ浜・琴ヶ浜研修センター【要申込・有料】

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。